

「家庭・学校との連携の中での道徳教育のあり方」を求めて

足利市立北郷小学校 道徳研究部

山 口 順 子

1. はじめに

昨今の教育の現状をみると、「いじめ」・「校内暴力」・「登校拒否」等々、さまざまな様相で、その問題点が表面化しつつある。そして、それらの原因や解決策は、一口に言えないものが多い。社会一般では、政治が悪い、社会環境が悪い、物質文明が悪いと言われているようであるが、そう決めつけてみたところで、問題の間（はざま）で苦しんでいる児童が教われるものではない。そこで、一教師としての自分にとって一番大切なことは、教師が社会を構成している一員であることを十分自覚した上で、自分のなしうる範囲で、自分の出し得る力で、誠意を尽くして、この問題解決に取り組むことだと考えた。

そこで、その誠意を尽くすということは何かということを考えてみると……。口先だけで教えるような教師にならないで、自ら人間として誠実に生きることを示し、後ろ姿で教える教師になること。児童一人ひとりを大切にし、誠意を持って接すること。授業を大切に考え、自己研修・教材研究に努めることなど、まだまだいくつもあげられる。しかし、大上段に振りかぶったところで、意気込みに終ってしまっては意味がないものとなってしまうので、今、自分にできること教育現場でできることを中心にして考えた。そうして、上記のテーマを設定し、その解決にせまることが自分に課せられたことと自覚し、その実践にとり組んだ次第である。

2 主題設定の理由

「いじめ」等の教育問題が議論される中で、道徳教育の必要性を叫ぶ声はしきりである。現に臨教審の第1次答申でも、第1部教育改革の基本方向の第1節「教育の現状の⑥」に德育の不十分なことが指摘されている。しかも、その⑤においては学校が父母や地域に対して閉鎖的であり、家庭・学校・地域の間の協力が不十分であるとしている。

しかし、その一方文部省の「道徳」の指導書では、「第1章学校における道徳教育の基本」の「第3節道徳教育の全体計画の『全体計画の作成』の才」では（家庭及び地域社会との連携、協力について具体的な方針を明らかにする。——学校における道徳教育は、家庭や地域社会との連携、協力によって、より充実し効果的に推進される。そのためには、例えば、学校から家庭への通信物や父母参観などの機会を生かして、学校における道徳教育の実際を具体的に知らせることなどをはじめ、実態に即した効果的な方法を工夫することが必要である。）と示している。つまり、文部省の「道徳」の指導書には示されていながら、実際には行なわれておらず、それが問題点としてあがってきているということになる。なぜ道徳の指導書で示されているこの内容が、教育現場である学校で実施されていないのであろうか。この反省がこの実践へ

の動機づけの最大のものとなった。そしてこの辺にも、道徳面からの問題解決の糸口があるようと思われる所以研究に着手したのである。

3. 研究の内容

(1) 実状と問題点

家庭との連携を進めることの大切さは周知のことでありながら、実状は前述のとおり進展していないように思われる。つまり、父母とのコミュニケーションの場（家庭訪問・授業参観・学年だより・PTA活動等）は形式的には用意されておりながら十分にその機能を果たしていないのである。

家庭訪問について言えば、年度頭初期日を決め、児童の実態もよく分からぬ時点で行なわれる。しかも、その目的は、児童理解・家庭環境理解ということで、教師はもっぱら聞き手にまわっている。そうして多くは年一回で終ってしまうのが常である。

授業参観では、教科内容及び学年学級懇談内容も、教師の都合・学校のスケジュールに合わせて行なわれる。授業参観の視点も多くは与えられず、父母はわが子を参観をしていく状態である。

学年だよりも月一回形式的に出され、十分学校の様子を父母に理解してもらうまでには行っていない。

PTA活動を通しての父母の声にしろ、それはごく限られた役員の声でしかないのである。

つまり、総合して言えることは、学校がリーダーシップを取っていても、あくまで学校・教師の発想中心にことが進められており、学校の状態を知らせること、父母の声に耳を傾けることも、不十分であるということである。

(2) 研究の方法

さて、このような実状では家庭との連携が不十分であるという認識から、父母・家庭との連携を道徳の視点から進めてみようとしても、具体的な方法は、指導書にも示されておらず、多くの参考書にもあたってみたが、その必要性が説かれているばかりで示されていない。

つまりは、自分自身で試行錯誤をくり返し、現実に受け持っているクラスの中でいろいろ取り組んでみるしかないように思われた。

そこで、大きく3つの方法で連携を図るための実践を試みた。

- 第1の方法 父母に対するアンケート調査。
- 第2の方法 授業参観で「道徳」の授業を行なう。
- 第3の方法 学級通信及び、学級新聞による広報活動。

それらの方法・内容を以下に述べてみることにする。

4. 父母に対するアンケート調査

(1) 児童の道徳性に対する父母の考え方や願いに関するアンケート調査の目的

本校には図①のような道徳教育全体計画があるが、父母の意識や願いに関して、さらにくわしい実態を知るためにアンケート調査を実施した。

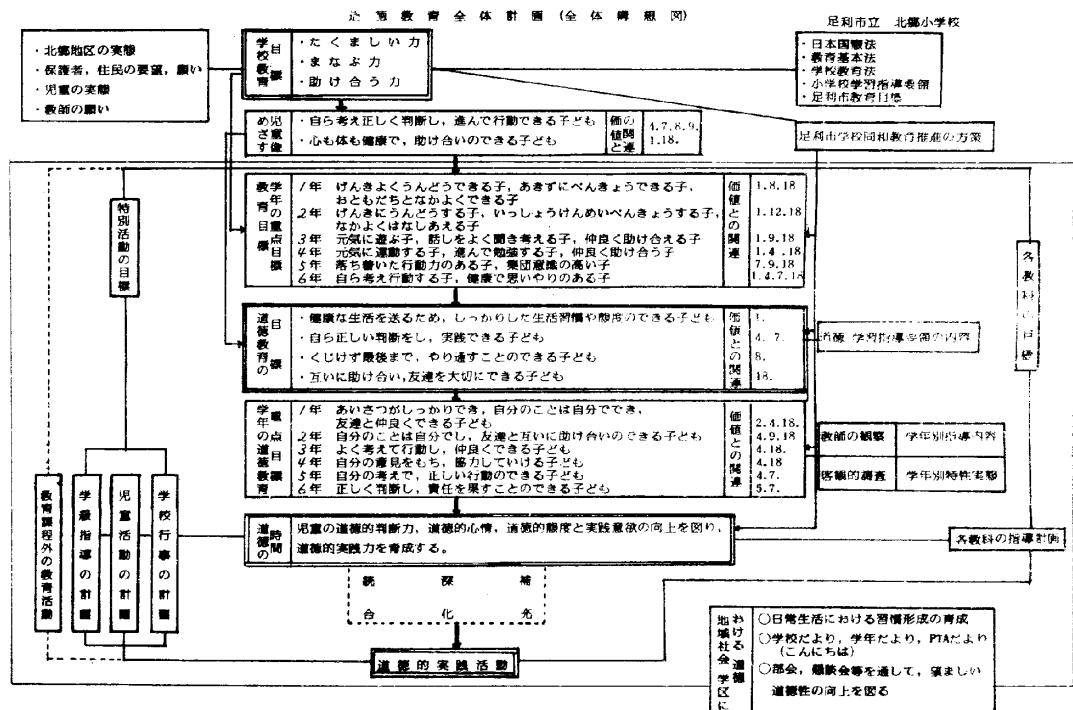


図 ①

(2) アンケート内容

下記の様式で父母にアンケート調査を実施した、と同時に同じ内容で教師にもアンケート調査をし、表①のような結果が得られた。

アンケート（A）

- ① お子様についてそれぞれ、良いと思われる場合○、普通と思われるばおい△、悪いと思われる場合は×、をつけてください。

足利市立北郷小学校

項目	目
1 生命を尊び、健康を意識し、安全の保持に努めている。	△
2 礼儀作法を正しくし、きまりのある生活をしている。	○
3 身の回りを整理・整頓し、物や金銭を活用している。	○
4 自分の正しいと信じることに従って行動し、みだりに他人に勧かれない。	△
5 自他の自由を尊重し、自分の行動に責任をもっている。	○
6 常に明るく、誠実に行動している。	○
7 正を愛し不正を憎み、勇気をもって正しい行動をしている。	○
8 正しい目標の実現のためには、困難に耐えて最後までやり通している。	○
9 人の忠告をよく聞いて自分を反省するとともに、思慮深く態度のある生活をしている。	○
10 自然を愛護し、優しい心で動物や植物に親しんでいる。	○
11 素直なものや恭謹などを好み、滑らかな心をもっている。	○
12 自分の特徴を知り、長所を伸ばしている。	○
13 常に希望をもち、より高い目標を立てて、その実現に努めている。	○
14 もののことを合理的に考え、常に研究的态度をもっている。	○
15 力が工夫をこらし、遠んで新しい分野を覗いている。	○
16 だれにも親切にし、弱い人や不幸な人をいたわっている。	○
17 自分たちや世の中のために尽くしてくれる人々に対し、尊敬し感謝している。	○
18 互いに信頼し合い、仲よく助け合っている。	○
19 個見をもたず、だれに対しても公正公平にふるまっている。	○
20 広い心で人の気持ちや立場を理解し、人の過ちをも許している。	○
21 規則や自分たちで作るきまりの意義を理解し、進んでこれを守っている。	○
22 権利を正しく主張するとともに、自分の果たすべき義務は確實に果たしている。	○
23 勤労の喜さを知るとともに、進んで入のためになる仕事をしている。	○
24 社会の一員としての自覚をもって、公共物を大切にし、公感を守っている。	○
25 家族の人々を敬愛し、よい家庭を作ろうとしている。	○
26 学校の人々を敬愛し、立派な校風を作ろうとしている。	○
27 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に尽くそうとしている。	○
28 広く世界の人々に対して正しい理解と愛情をもち、人類の幸福に役立つ人間になるようとしている。	○

アンケート（B）

こんな子に成って欲しいと思われるもの3つ選んで○をつけてください
い。

1 最後までねばり強くやりぬく子
2 元気でたくましい子
3 のびのびと明るい子
4 健康に注意し安全に心掛ける子
5 工夫して行う子
6 じっくりと考える子
7 筋道を立て考える子
8 計画的にものごとを実行する子
9 やさしく思いやりのある子
10 正直で誠実な子
11 動植物をかわいがる子
12 身まわりをきちんとした物を大切にする子
13 友達と仲よく協力できる子
14 すすんで手伝いや仕事をする子
15 人のためにつくせる子
16 人の話をよく聞ける子
17 正しいことばづかいやあいさつのできる子
18 きまりを守れる子
19 人に感謝することのできる子
20 人にめいわくをかけない子

特に良いもの（　　、　　、　　）特に悪いもの（　　、　　、　　）

（児童・教師・父母）

S.60年10月 足利市立北郷小学校

設問	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	教師
1	○ 27 △ 59 × 2	○ 32 △ 63 × 4	○ 39 △ 58 × 3	○ 32 △ 62 × 5	○ 40 △ 55 × 1	○ 43 △ 52 × 1	○ 0 △ 92 × 8
2	○ 20 △ 68 × 10	○ 18 △ 73 × 9	○ 19 △ 75 × 6	○ 28 △ 62 × 10	○ 21 △ 67 × 8	○ 21 △ 67 × 7	○ 0 △ 65 × 35
3	○ 17 △ 56 × 24	○ 15 △ 58 × 26	○ 16 △ 55 × 28	○ 16 △ 54 × 30	○ 18 △ 53 × 26	○ 21 △ 54 × 21	○ 8 △ 73 × 19
4	○ 25 △ 63 × 10	○ 24 △ 63 × 13	○ 32 △ 59 × 9	○ 23 △ 66 × 12	○ 35 △ 44 × 10	○ 34 △ 55 × 7	○ 0 △ 54 × 31
5	○ 18 △ 65 × 14	○ 18 △ 74 × 9	○ 22 △ 71 × 7	○ 13 △ 72 × 15	○ 33 △ 61 × 3	○ 30 △ 62 × 4	○ 4 △ 65 × 31
6	○ 32 △ 42 × 2	○ 46 △ 53 × 0.5	○ 52 △ 47 × 1	○ 44 △ 54 × 2	○ 55 △ 39 × 1	○ 49 △ 44 × 2	○ 42 △ 54 × 4
7	○ 19 △ 74 × 5	○ 16 △ 78 × 6	○ 22 △ 72 × 5	○ 16 △ 74 × 4	○ 37 △ 63 × 1	○ 25 △ 65 × 6	○ 4 △ 77 × 19
8	○ 10 △ 65 × 23	○ 16 △ 63 × 20	○ 15 △ 67 × 18	○ 13 △ 64 × 23	○ 15 △ 63 × 17	○ 20 △ 61 × 14	○ 0 △ 58 × 42
9	○ 13 △ 67 × 18	○ 17 △ 66 × 17	○ 12 △ 71 × 17	○ 11 △ 72 × 18	○ 16 △ 66 × 13	○ 18 △ 67 × 11	○ 0 △ 85 × 15
10	○ 6.5 △ 38 × 5	○ 57 △ 32 × 0.5	○ 52 △ 39 × 7	○ 54 △ 42 × 3	○ 52 △ 33 × 1	○ 50 △ 42 × 4	○ 54 △ 42 × 4
11	○ 4.8 △ 47 × 3	○ 44 △ 52 × 4	○ 35 △ 61 × 4	○ 27 △ 69 × 4	○ 29 △ 63 × 3	○ 32 △ 51 × 2	○ 4 △ 81 × 15
12	○ 21 △ 67 × 10	○ 19 △ 69 × 12	○ 19 △ 69 × 12	○ 23 △ 66 × 11	○ 24 △ 62 × 10	○ 23 △ 65 × 7	○ 15 △ 77 × 8
13	○ 9 △ 70 × 19	○ 14 △ 66 × 20	○ 12 △ 71 × 17	○ 16 △ 72 × 17	○ 22 △ 59 × 15	○ 11 △ 67 × 18	○ 4 △ 81 × 15
14	○ 18 △ 54 × 25	○ 12 △ 63 × 25	○ 14 △ 63 × 23	○ 12 △ 63 × 21	○ 12 △ 62 × 23	○ 13 △ 57 × 27	○ 4 △ 73 × 23
15	○ 16 △ 61 × 21	○ 13 △ 51 × 26	○ 9 △ 69 × 22	○ 17 △ 62 × 22	○ 12 △ 51 × 23	○ 14 △ 61 × 21	○ 15 △ 65 × 19
16	○ 4.7 △ 49 × 2	○ 4.1 △ 51 × 2	○ 4.4 △ 54 × 2	○ 3.3 △ 64 × 2	○ 4.3 △ 52 × 1	○ 4.3 △ 49 × 4	○ 23 △ 73 × 4
17	○ 28 △ 64 × 6	○ 22 △ 74 × 4	○ 25 △ 69 × 6	○ 20 △ 77 × 3	○ 28 △ 62 × 5	○ 27 △ 65 × 5	○ 12 △ 69 × 19
18	○ 36 △ 59 × 2	○ 30 △ 67 × 3	○ 38 △ 60 × 2	○ 30 △ 68 × 27	○ 38 △ 57 × 1	○ 39 △ 53 × 4	○ 12 △ 69 × 0
19	○ 41 △ 50 × 7	○ 39 △ 58 × 3	○ 40 △ 58 × 2	○ 31 △ 66 × 3	○ 42 △ 49 × 3	○ 39 △ 51 × 6	○ 8 △ 85 × 8
20	○ 23 △ 67 × 8	○ 17 △ 72 × 11	○ 21 △ 74 × 5	○ 11 △ 77 × 13	○ 18 △ 68 × 9	○ 16 △ 70 × 11	○ 4 △ 92 × 4
21	○ 30 △ 63 × 4	○ 26 △ 65 × 9	○ 31 △ 66 × 3	○ 27 △ 66 × 7	○ 32 △ 59 × 4	○ 32 △ 57 × 7	○ 4 △ 81 × 15
22	○ 12 △ 70 × 15	○ 15 △ 70 × 15	○ 14 △ 73 × 13	○ 11 △ 78 × 11	○ 21 △ 65 × 10	○ 14 △ 70 × 11	○ 12 △ 73 × 15
23	○ 43 △ 68 × 13	○ 8 △ 77 × 13	○ 12 △ 75 × 13	○ 11 △ 77 × 12	○ 14 △ 69 × 13	○ 12 △ 71 × 11	○ 19 △ 69 × 12
24	○ 29 △ 62 × 6	○ 22 △ 74 × 4	○ 27 △ 71 × 2	○ 20 △ 74 × 6	○ 29 △ 63 × 2	○ 27 △ 65 × 5	○ 0 △ 85 × 15
25	○ 44 △ 52 × 1	○ 31 △ 67 × 2	○ 40 △ 58 × 2	○ 32 △ 65 × 3	○ 45 △ 50 × 0	○ 36 △ 56 × 4	○ 15 △ 77 × 8
26	○ 27 △ 68 × 2	○ 15 △ 80 × 5	○ 22 △ 75 × 2	○ 16 △ 81 × 4	○ 22 △ 74 × 1	○ 20 △ 74 × 2	○ 4 △ 77 × 19
27	○ 7 △ 75 × 16	○ 4 △ 75 × 20	○ 7 △ 78 × 15	○ 6 △ 78 × 16	○ 5 △ 80 × 11	○ 6 △ 80 × 12	○ 4 △ 85 × 12
28	○ 13 △ 71 × 13	○ 8 △ 77 × 15	○ 13 △ 75 × 12	○ 11 △ 80 × 9	○ 13 △ 76 × 7	○ 13 △ 74 × 9	○ 0 △ 85 × 15

・ 父母の反応

可とするもの …… 斜線網かけ
不可とするもの …… 濃点網かけ

・ 表中の数値は %

(3) アンケート集計結果に対する処理と考察

(1) 父母に対して

上記のような結果が得られたが、それをストレートに父母に帰すことは避け、父母が受け止めやすい形で、結果を知らせた。内容は下記のようなものである。

保護者殿

昭和60年10月 7日

足利市立北郷小学校長
佐藤 行雄

道徳アンケート調査結果のお知らせ

過日は、アンケート調査に御協力下さいまして誠に有難うございました。
ほぼ100%に近い回収率でした。

皆様方の教育に対する熱意の表われと深く感謝いたしております。データーは、今後さらにくわしく分析し、これからの中学校教育に役立てていこうと考えております。

参考までに全集計結果の中からおもなものをお知らせいたします。

アンケート【A】について

- 現在のお子様について、よいと思われるものには○を、普通と思われるものには△を、悪いと思われるものには×をつけていただいたもの。

☆ 良いとの反応が多かったもの上位から3項

- 常に明るく誠実に行動している。
- 自然を愛護し、優しい心で動物や植物に親しんでいる。
- 誰にも親切にし、弱い人や不幸な人をいたわっている。

☆ 悪いとの反応が多かったもの上位から3項

- 身の回りを整理整頓し、物や金銭を活用している。
- ものごとを合理的に考え、常に研究的態度を持っている。
- 創意工夫をこらし、進んで新しい分野を開いている。

アンケート【B】について

- お子様に、こうなってほしいと思う事柄を3つ選んでいただきました。

☆ 嬉しいとして多かったもの上位から3項

- 優しく思いやりのある子
- 最後まで粘り強くやりぬく子
- 人に感謝することのできる子

昔から「氏より育ち」と申します。お子さんが、よくなるも悪くなるもつまるところは家庭のしつけ次第ということを言い表したものです。
今回の調査結果を参考に、これからのお子さんのしつけの上で役立てて頂ければ幸いです。

以上

(2) 教師側からの考察

アンケートをすることの重要性は、ただ単に父母の意識が理解できるということではなく、教師一人ひとりが作業を通して、結果を考察しながら、自分自身の意識化を図ることにも大きな意味があるように思われる。従って、各学年ごとにアンケートの集計結果に対して考察を加えていった。その結果は次の通りである。

各学年で考察した例（道徳アンケートの集計結果から考えられること）

◦ 3年の例

1. 結果から読み取れる問題点

父母の見方が実態からずれている。（①と⑪の項で顕著であるが）家庭の中における子どもの行動を中心であり、親子の関係では、アンケート集計通りではあると思うが、子どもの集団の中ではこれほど期待できない。

父母・教師双方がずれているのではないだろうか。（⑯と⑰の項）父母は良すぎるし、教師は見すごしていないだろうか。

2. 今後の具体的対策

・良いので今後継続発展させたいもの→⑥　・今後指導の重点としたいもの→②③④⑤⑦⑧⑨⑩より（基本的生活習慣の育成と自律的態度の育成）⑫⑬⑭⑮より（目的意識の醸成ー自分自身を知り自分の長所を向上させていく姿勢）⑯⑰⑱⑲より（個と集団における役割意識の向上・テイクアンドテイクではなく、ギブアンドテイク）

3. その他の

物質的な豊かさから精神的な豊かさへ、人としての価値観の変容をめざす。

◦ 5年の例

1. 結果から読み取れる問題点

・身のまわりの整理整頓ができていない。　・根気力がない。　・勤労意欲が不足している。　・礼儀作法的な習慣形成について親は望んでいながら、基本的生活習慣については望んでいないような点がある。　・親の価値観は、学習成績優先で、礼儀的な面はなおざりになっている。

2. 今後の具体的対策

・授業の場の中で、しつけに関するものをポイントにとり入れるように図る。　・共通理解を図り重点的に指導にあたる。（清掃の場→全員で黙動・学習指導の場→物の大切さ）
・あいさつ・言葉遣いに対するけじめも徹底させる。　・いいこと・がんばることへのひやかしつぶしの傾向があるので、高学年の意識をかえていく必要あり。

3. その他の

1日のうち1回は全校で静かに落ち着いて行動する場を設けるとよいのではないか。

（例　瞑想トレーニング等）

(4) アンケートの集計結果を「家庭・学校との連携」という立場で分析してみると

(アンケートA)

- 父母・教師が同じような見方をしているもの

価値項目⑥（常に明るく、誠実に行動する）⑩（自然を愛護し、優しい心で動物や植物に親しむ）については、父母教師共に本校児童の良い面としてとらえている。又価値項目③（身の回りを整理・整とんし、物や金銭を活用する）⑧（正しい目標の実現のためには、困難に耐えて最後までやり通す。）⑭（ものごとを合理的に考え、常に研究的態度をもつ。）⑯（創意工夫をこらし、進んで新しい分野を開いていく）は、共に不十分な点としてとらえている。

従って、これらは学校・父母共に足並みをそろえ、良い面はさらに伸ばし悪い面をアップさせる方策をとることができると思われる。つまり、これらを学校教育の中で重点化して指導することは父母の意志にも、実態にもかなったことと言える。

- 父母・教師がちがう見方をしているもの

価値項目②（礼儀作法を正しくし、きまりのある生活をする。）④（自分の正しいと信ずるところに従って行動し、みだりに他人に動かされない。）については、父母は良しとしながら教師は不十分であると考えている。

これらの現象はどうして起こるのか考えてみる。（データ処理の方法に起因することもあるだろうが、おおむね、父母と教師の児童に対する見方がちがっていると考えて良いのではないかとした上で）以下くわしくみてみたい。

価値項目④について言えば、父母は良しとしている数の方が不十分としている数よりも多い、一方教師側は良しとするものが0%で不十分としている数が31%にも上っている。そして、実態をながめてみると、友人関係のきずなが強いあまり、きまりをやぶったり、仲間はずれなどの現象はしきりである。また、分かっていながら面倒だからとか、なんとなく面白いからなどで、まちがった行動に走る児童も跡を絶たない。良しとはいえない現象が多数あげられる。

では、どうしてこのようなくいちがいが起こるのであろうか。事実に対する認識尺度や期待水準のちがい・学校と家庭での児童の対応行動のちがい、親や教師が学校や家庭での児童の様子を十分理解していない、などが考えられると思う。

つまり、父母と教師が歩み寄り、それぞれの場における児童の生活実態を十分知らせ合い、理解し合い、同一のペースで児童をみつめてやる必要があるようと思われる。そうすることにより、児童の行動もより安定したものになると思われる。

- 家庭・学校で行う道徳教育のあり方（気質と性格という考え方に対する考察）

さて、家庭と学校で歩み寄るというが、どのような方法で歩み寄っていったら良いのか考えてみたい。ここで、いくつかの参考書を調べているうちに、大変興味ある考えに

めぐりだったので、これを参考にしてこの問題を考えてみた。（藤原正教氏の考え方）気質と性格という考え方である。

性格を表わす言葉にキャラクター (character) がある。これを英和辞典で調べてみると、「特性・性質の外に気骨・評判・地位・有名人・人物・証明書、さらに、彫り付けるとか、刻み込む」という意味が見当る。同義語にも「ある個人特有の道徳的性質の総和で、人物の価値基準となるもの」というものもある。従って、この言葉から性格をとらえれば、人間が生まれる以前に刻み込まれていて、どうにも変えられないものという考えが生まれてくる。

これと類義語に、性格・人格を表わす言葉（*personality*）がある。同様に辞書で調べてみると「人としての存在・人柄・個性・人物批評」等がある。語源をみるとギリシア語のペルソナ（お面をかぶる）ということからきていることが分かる。つまり、これから性格は面をかぶりなおしてしまえば変化することができるということになる。

以上は単に言葉から受け止めてみた場合だが、心理学的な面からは、それぞれ性格特性と気質という言葉で分けていくようだ。

氣 質：概して性格の変わりにくい要素。

性格特性：気質どおりでなく、変わった形で現われる。

そして、気質の中に含まれるものに うつ質・分裂質・粘着質・偏執質・顯示質などがあり、性格特性の中には、勇氣がある・落ち着いている・おっちょこちょい・慎重・臆病などがある。

さて、この気質・性格特性を理解した上で、家庭・学校でどう取り組んでいくかということであるが、性格特性は3歳から6歳まで家庭で作られ、その良し悪しを相互比較しながら自覚させていくのが学校であるから、それぞれの立場において、その責任を果たす必要があると思われる。

つまり、気質にかかわる内容を学校で力を入れ、教育実践を行なったところ効果はうすいということになる。それより、児童の気質を本人にも親にも理解してもらった上で、好ましくない気質を性格特性でおぎない、より好ましい方向に向けてやることが大切だと思われる。また、好ましくない性格特性についても、家庭で理解してもらい、どうしてそのようになったか、親自身の生活態度を振り返ってもらう必要があるだろう。そうすることによって、性格特性のできる下地を良いものにし、それを学校で補充強化していくことが望ましいと思われる。

藤原正教氏は、これらについて「愛と感動の教育」の中でこう述べている。『家庭はよい性格を作る場だと常々考えております。そして、学校は、その作られてきた子供たちの性格を自覚させる、自分で性格を変えていこうという意欲を起こさせる場所です。』

以上のことから、道徳教育のあり方を見直す一視点として、気質・性格的側面からの考察を試みたわけであるが、具体的に学校現場で、これをどう実践していくかということになると、さらに研究を継続し、実践していかなければと考えている。（アンケート）

Bについての集計結果及びその考察は紙面の都合上略す。)

5. 父母参観日における「道徳の授業」 ー父親参観日においてー

道徳の授業は学校で毎週行なわれていながら、家庭には十分理解されていない。そこで特に授業参観をすることの少ない父親対象の授業参観日の機会をとらえて授業を試みた。その内容は以下のようなものであった。

イ 主題名 ぼくの家出

ロ ねらい 家族の一員としてそれぞれの立場を理解し、協力して楽しい家庭をつくろうとする心情を育てる。

ハ 展 開

	学習活動	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. クラスのアンケート調査の結果を見て、家族に対する友達の多様な考え方を知る アンケート調査内容 (1)良い家族の条件 (2)家族に感謝していること (3)家族に対し不満なこと</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ◦ そう、やつあたりはいやだな。 ◦ 夫婦げんかも ◦ 口やかましいのもいやだね。 ◦ 病気のときやさしくしてくれるのはいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 家族の良い面、悪い面を知り、理想の家族像と比較することができるようさせる。 ◦ 自分の考えと友達の考えを比較して、もう一度自分の家庭を眺め直せるようにする。
展開	<p>2. 資料「ぼくの家出」を読む</p> <p>3. 感想を発表する。</p> <p>4. 家を飛び出したときのぼくの気持ちを考える。</p> <p>5. 家族が心配してくれていたことが分かったときのぼくの気持ちを考える。</p>	3 5	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ぼくは自分勝手。 ◦ 仕方がない。 ◦ 親のことも考えるべきだ。 ◦ とても後悔した。 ◦ 子供をにくらしいと思う親は居ないのだから、もう少し考えれば良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ぼくの気持ちのうつり変わりに注意して読むようにさせる。 ◎ 2つの考えを十分に出し合わせ、両方お互いの言い分に耳を傾かせたい。 ◦ 家族の深い思いやりに十分気づかせたい。

	6. 家族の有り難さを知り、自分も良い家族の一員になるための気くばり、心がまえを書く。		。もう少し、家族に対する思いやりを持つとう。 。手伝いもしよう。	。いつもとは気分を変え、ノートではなく作業用紙に書かせる。
終 末	7. 教師の説話を聞く。	5		。教師自身親の立場から子に対する気持ちを話して、考えを深めさせたい。

ニ 反 省

授業そのものは、決して平常の授業のように進んだとは言えなかった。しかし、この授業の中で考えさせられるものもあった。日頃の授業では、割合本音が出やすく、児童が本当の姿を出し、話し合い、そしてより高い価値に引き上がっていくことが多い。

しかし、授業参観で父母を前にしてとなると、割合本音は出にくいものであった。それゆえ、別な角度で授業を見、進めることができた。すなわち「本音」と「建て前」について考えさせられることになった。

それは、竹ノ内一郎氏著「心を育てる道徳の授業」の一節を借りてみると……

『ただ、本音を吐かせることが大切であるということで、これを強要するむきがないでもないが、本音にはおのずから限度のあることを銘記すべきであろう。…………京都教育大学村上敏治教授も…（よく建て前と本音ということが道徳教育に関していわれる。私は、このことに終始疑問を持ち続けてきている。本音をはかせるなどとひどいことをいう。しかし、今日の道徳教育で一番欠落していることは、建て前をしっかり教えていないということである。こういうことをしなくてはならない。こういうことはしてはならない。という建て前をしっかりさせないで「ゆさぶり」をかけたり、「葛藤をさせてばかりいるので、結局いつまでたっても建て前がしっかりしない…）』

この観点からすれば、親にも子にも、るべき姿はこうだということをはっきり示すことはできた授業であったと思う。

この授業から父親自身も親のるべき姿を考え直してもらい、子供の姿を少しでも理解してもらえれば幸いと思う。

6. その外の実践例（学級通信及び学級新聞で）

以下その記事を示してみたい。

4. まとめ・反省

家庭との連携を図るべく、この研究に取り組んでみた訳であるが、実際に着手してみると、アンケート結果からも、家庭と学校との間に意識のずれがあることが分かった。また参考書で調べていくうちに、学校で行なっている、私自身の教育活動にかなりの反省点のあることに気付いた。家庭への働きかけが、意図的・意識的になされなければだめだということに気付いたのである。

そして、この研究を総括的に振り返ってみると、まだまだテーマの入口に気付いた程度であると思われる。真にこのテーマに迫るのはこれからだという感が強い。来年度からは本年度得られたものを基に、一步でも進むよう努力していきたい。

評

学校における道徳教育を更に充実するためには、教師と児童生徒が互いに信頼関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を一層密にし、地域のもつ教育力を高める努力をすることは大切です。特に、学校と家庭が共通の目標のもとに、それぞれの教育機能の特性を生かし、協働していくことが子供の人間形成にとって肝要です。その意味で、北郷小学校道徳研究部の研究実践は、今日的な研究であり、貴重な実践記録であります。

- アンケート調査により父母の意識や願いの把握に努めたこと。
- 学校における道徳教育を正しく理解していただくために、道徳の授業参観をはじめ、学校通信、学級新聞等を実践されたこと等々。

家庭との相互信頼、相互理解を図るべく積極的に取りくまれたことは、今後の道徳教育推進にあたって大きな一歩でありました。

家庭との連携を深める際に大切なことは、教師の姿勢の問題です。教師と父母とは、子供の健全な人間形成を願い、それに精進する伴侶として、共に悩み、共に考え合うことを大切にしたいということです。すなわち、自己啓発、相互啓発としての姿勢です。

今後とも、この面について研究の継続を期待いたします。